

2016.4.24 聖別会

# IMMANUEL

インマヌエル  
中目黒キリスト教会  
聖別会マンスリー

2016年

< 聖化の豊かさを味わう > 「聖化の説教」

「エリヤ、主の前に立つ」

ホーリネス深川教会・芦田道夫牧師

「主は仰せられた。『外に出て、山の上で主の前に立て。』」  
(列王記第一 19:11)

はじめに：「主の前に立つ」とはどんなことかをエリヤの例で学ぶ。

【エリヤの時代背景】

- ・列王記の著作目的：神への不服従・反逆を繰り返し、その結果捕囚となった民の深い自己反省を記述すること
- ・エリヤの時代：北イスラエルのオムリ王朝(経済大国フェニキヤと同盟するために、オムリは息子アハブの妃としてフェニキヤの王女イゼベルを迎えた。イゼベルはバアル信仰を協力的に推進し、ヤハウエ信仰は衰えた。

## 1. 預言者としての備え(17章)

- ・アハブ王の前で干ばつを宣言し、その干ばつの被害を身に受けながら神への信仰を学んだ：
- ・そのしもべを守り、養うというお方として
- ・異邦人をも救いに導くお方として

## 2. 預言者としての積極的働き(18章)

- ・850人のバアル・アシェラ預言者とたった1人で対決し、勝利した。
- ・エリヤの主目的は、バアル預言者の壊滅よりも、ヤハウエとバアルとの間を揺れ動いている主の民をヤハウエへに帰依させることであつた。
- ・しかし、エリヤのこの願いは果たされず、彼は空しさと無力感に襲われた。

## 3. 預言者としての消極的働き(19章)

- ・エリヤの逃亡：イゼベルの怒りの本気度と民のいい加減さを知つたエリヤは、恐怖感に襲われ、荒野へ逃亡する。彼は失望し、疲れ、全てを投げ出して逃げようとする普通の人間に戻つた。
- ・エリヤの休息：エリヤは休息と食事を与えられ、神の声を聞くために「イスラエルの信仰の出発点」であるホレブの山に登つた。

- ・神の扱い：神はエリヤに「退場勧告」を行い、その仕事を後継者に委ねるべきことを勧めた。エリヤにとっては、大きな働きをするよりも、主の声に聞き従い、後継者にすべてを託す謙りを学んだことが最大の教訓であった。

**おわりに：**

私たちも、何かを「する」ことよりも、神の前にどう「ある」かを大切に考えよう。